

9月の休日診療

Table with 4 columns: 診療時間, 内科・小児科(昼間), 内科・小児科(準夜), 歯科休日診療. Rows include dates from 7日(日) to 28日(日) with specific clinic names and phone numbers.

- ①健康相談(②のみ予約制)
②子育て教室(予約制)
③子育て教室(予約制)
④子育て教室(予約制)
⑤子育て教室(予約制)
⑥子育て教室(予約制)
⑦子育て教室(予約制)
⑧子育て教室(予約制)
⑨子育て教室(予約制)
⑩子育て教室(予約制)
⑪子育て教室(予約制)
⑫子育て教室(予約制)
⑬子育て教室(予約制)
⑭子育て教室(予約制)
⑮子育て教室(予約制)
⑯子育て教室(予約制)
⑰子育て教室(予約制)
⑱子育て教室(予約制)
⑲子育て教室(予約制)
⑳子育て教室(予約制)
㉑子育て教室(予約制)
㉒子育て教室(予約制)
㉓子育て教室(予約制)
㉔子育て教室(予約制)
㉕子育て教室(予約制)
㉖子育て教室(予約制)
㉗子育て教室(予約制)
㉘子育て教室(予約制)
㉙子育て教室(予約制)
㉚子育て教室(予約制)
㉛子育て教室(予約制)
㉜子育て教室(予約制)
㉝子育て教室(予約制)
㉞子育て教室(予約制)
㉟子育て教室(予約制)
㊱子育て教室(予約制)
㊲子育て教室(予約制)
㊳子育て教室(予約制)
㊴子育て教室(予約制)
㊵子育て教室(予約制)
㊶子育て教室(予約制)
㊷子育て教室(予約制)
㊸子育て教室(予約制)
㊹子育て教室(予約制)
㊺子育て教室(予約制)

保健ガイド
保健センター
552-0061

9月の乳幼児健康診査

Table with 5 columns: 健診内容, 対象, 健診日, 受付場所・時間, 備考. Rows include 3か月児, 6か月児, 9か月児, 1歳6か月児, 3歳児.

9月の予防接種

ポリオ生ワクチン

Table with 4 columns: 種別, 期日, 通知対象, 備考. Rows include ポリオ1回目 with dates 19日(金) and 24日(水).

内容①新しい家族を迎えるにあたって②沐浴実習
申込み9月19日までに電話
9月3日(水), 17日(水)午後1時～2時(受付)場所保健センター対象4歳未満
申込み前日午前中までに保健センターへ。

14～22歳未満の方に風しんの予防接種を(9月で制度終了)
風しんの予防接種を公費で行いますので、接種希望の方は、予診票を保健センターまでとりにおいでください。
対象市内在住で、昭和54年4月2日から昭和62年10月1日までの間に生まれた方で、接種日当日、14歳以上22歳未満の方(以前に、風しんの予防接種をされた方、風しんにかかった事のある方は除く。)
接種期間 9月30日まで
接種場所 市内の指定医療機関(予診票に記載)
小学4年生・中学3年生の日本脳炎の予防接種は9月まで(ご注意ください)
対象の方には通知をしていますが、未接種の方は、必ず保護者同伴で早めにお受けください。通知のない方は、保健センターにお越しください。
場所 市内の指定医療機関
期間 9月30日まで(各指定医療機関にご確認ください)
対象 小学4年生・中学3年生
問合せ 保健センター ☎552・0061

市民のひろば

- 催し物
◆後期初心者弓道教室①火曜日コース9月2日～、午前10時30分～11時30分②土曜日コース9月6日～、午後8時～9時。各コース全10回、中央体育館弓道場、高校生以上対象。
※参加費はスポーツ保険代等2千円。(弓道連盟:椎名甲子夫 ☎551・6185)
◆会員募集
◆日本ボーイスカウト福生第1・2団ビーバー隊▷新入隊員、指導者募集(平成16年4月に小学校入学の男子、各団先着10人)=8月31日まで募集、9月入団。募集地域①福生第1団は、第一・四・六・七小学校区域。②福生第2団は、第二・三・五小学校区域。▷指導者募集=18歳以上で子どもといっしょに活動していただける方(未経験者歓迎)申込み①佐藤正明 ☎552・7530②鮫島一郎 ☎552・7141
◆社交ダンスさくら会毎週日曜、午後1時～4時、さくら会館、入会金1千円、月2千円(里川民夫 ☎553・2567)
◆児童合唱団フレンズ毎週土曜、午前10時～正午、公民館本館、月3千円(仲則代 ☎530・0015)
◆福生ひよっこひょうたん連(ひよっこ踊り)毎月第1・2・3木曜、午後1時～3時、公民館本館、月1千円(清水特行 ☎552・7015)
◆社交ダンスラッキークラブ(初心者60歳位以上の男女対象)毎週木曜、午後1時～4時、福祉センター、月2千5百円(工藤勝二 ☎553・7639)

医師会だより
日本人の3人に1人が「がん」で亡くなる時代です。これをお読みの方の中にも、おそろくご家族、知り合いの中にごんを患っている方が、または当事者であるという方が沢山いるのでは?と思います。
ところで皆さんは、ホスピス(緩和ケア病棟)をご存知でしょうか?「もう治療の出来ない進行がんの患者だけが来る場所」ということは理解してはいたとしても、最後の最後に行く死に場所、入ったら最後、二度と出られない場所、入ったら眠らされてしまう場所、というように、大きく誤解されている方も多いのではないかと思います。
ホスピスとは進行がん患者の痛み、吐き気、呼吸の苦しさ、体のだるさ、気持ちのつらさ、などなどの症状を決して眠らせるのではなく、いろいろな薬剤を組み合わせながらなるべく自然な形でコントロールし、もともとの人らしさをできるだけ保ちながら残り時間を過ごしていただくことをお手伝いするための場所です。
よく、雑誌の闘病記などでがん患者が「最後の最後まで痛みを耐え抜いて…」などと書き、あたかも症状を我慢してきたことを美談のように扱っていますが、これは、とてもでない間違いです。がん症状コントロールの方法は年々進歩しています。もはや、がんは、必ずしも七転八倒し、苦しみながら亡くなる病気ではないのです。
つらいがん症状が残っていても、つらい思いを我慢していませんか?また、先行きのことを考え、つらくなり、心が悲鳴をあげていませんか?決して我慢はしないでください。がんなんだから症状が残っていて当然とあきらめないでください!すぐにインターネットや図書館、本屋にある、関連の書物で調べてください。できるだけ早くに行動し、そして一日も早くつらい症状を取り除かれ、穏やかな時間が戻ってくることを心から祈っています。
問合せ 保健センター ☎552・0061
文責 宮川医師

※市民のひろばの連絡は、当事者間で行ってください。掲載希望の方は、秘書広報課広報係へ。